

入居団体の紹介

1. 日本徐福協会【Cタイプ】

【団体の目的と概要】

2200年前、徐福は秦の始皇帝の命を受け、不老不死の霊薬を求め、仙人が住むという東の海に旅立ったが、戻ってこなかった。日本には各地に徐福が来て、平和的に先進文明を伝えた、との伝説が各地に残り、徐福を神として祀っている神社、徐福の祭事を行う神社、毎年徐福の法要を行う地方もある。また、徐福は日中友好のシンボルとなっている。

日本、中国、韓国には、徐福伝説を研究する団体があり、毎年国際研究会なども開催されている。最近三カ国の研究者の間で、徐福伝説をユネスコの世界無形文化遺産に登録しようとする機運が高まり、そのための日本の組織として、国内の徐福研究団体（個人を含む）の徐福研究者20団体（個人を含む）が集まり、2016年4月に「日本徐福協会」が発足した。

日本徐福協会の会員には、神奈川県日中友好協会に所属する神奈川徐福研究会があるが、当会では隔月に定例会を実施し、毎回30人前後の参加者が集まり、神奈川県内の徐福伝説を中心とする研究をすすめている。

日本徐福協会の役員は、会長、事務局長、会計が神奈川徐福研究会から選出され、日本徐福協会の中心的な役割を担っている。

【活動内容】

- ① 主な活動地域 全国、中国、韓国の各地
事務局は、主に横浜で事務を行っている。
- ② 活動の内容
 - ・会員である各地の徐福研究者が、無形文化遺産の対象となる徐福伝説、徐福の墓、神社等の遺物、徐福の神社や寺院での祭礼の情報の収集整理。
 - ・ホームページを開設して、情報の共有、公開。
 - ・中国、韓国の徐福研究団体との交流。